

令和6年度 社会福祉法人八康会 事業報告

総 括

平成10年8月に特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ケアハウス、在宅介護支援センターを開設した当法人は、その後ヘルパーステーションや居宅介護支援事業所などを開設し、久御山町内の中核的な施設として地域との関わりを深めながら事業運営を行ってきた。

令和5年9月1日付で、デイサービスセンターの2単位制を1単位制へ変更後に、事業の効率化や利用者の利用目的および時間などを選択できる体制を整え、利用者の増加が顕著となった。今年度は、さらに令和6年8月1日付で、定員30名から35名とすることで、新たな利用者獲得に繋がり、安定した運営及びさらなるサービス向上に努めた。令和4年度から取り組みをはじめた外国人技能実習制度の活用から特定技能など外国人採用の取り組みに繋がり、安定的な介護職員の人員確保を行った。又、実習生に対する日本語や介護技術などの教育の充実を図り、順調に日本語能力試験（JLPT）「N2」「N3」合格や介護技術の習得ができており、現在、令和7年度中の介護福祉士資格取得を目指している状況である。

令和6年度事業計画における重点項目と事業の実施結果は次のとおりである。

（人財の確保・育成のための環境整備）

全国的にも介護職員の人材不足が大きな課題となっているが、インターネットによる求人や人材紹介、新聞広告チラシ作成・配布、ハローワーク求人などを活用し、11名（介護5名、看護3名、介護助手2名、管理当直1名）の採用に繋がった。又、令和4年度から受入をはじめた外国人技能実習制度の活用や特定技能外国人人材の受入も積極的に行い、現在まで6名の受け入れに繋がった。現在、さらなる日本語教育や介護技術の習得など、外国人材の安定的な雇用継続を図っている。

職員の離職防止を含めた対応にも重点的に取り組んだ。「京都府福祉職場組織活性化プログラム」職員アンケートの活用や職員会議や育成面談などで意見を聞き取り、ワークライフバランスに配慮した働きがいのある、魅力ある職場づくりに取り組んだ。今年度の有給休暇取得率は、69.5%（昨年度比：+2.7%）であった。又、当法人は、安心して働ける職場であることを示す「きょうと福祉人材育成認証制度」の認証事業所であり、今後も職場の魅力向上と人財の育成及び定着に努めたい。

（安心・安全な利用者サービスの提供）

各事業所においては、コロナ禍における利用者の命、尊厳を守る行動、一人ひとりが楽しいと感

じる暮らしと、健康で生きがいをもって日々の生活ができるように、サービスの質の向上を図ることを第一に考え、事業展開を行った。又、「京都府地域密着型サービス等整備等助成事業補助金」を活用し、多床室40床のプライバシー個室化工事を実施し、過去に工事完了済の居室を含め、全多床室がカーテンでの間仕切りから可動式壁の間仕切りに変更となり、一層のプライバシー保護及び快適で安らぎのある居住空間を提供することができた。利用者満足度については、年1回アンケート調査を実施し、寄せられた意見に対しては、各事業所内で検討し、改善に繋げている。なお、今年度は、デイサービスセンターにおいて、第三者評価事業を受診し、サービスの自己評価を実施することで、より質の高いサービスに繋がる見直しを行った。

高齢者に対する虐待については、各事業所内および法人全体の身体的拘束適正化委員会・虐待防止委員会を毎月定期的に開催し、職員への全体研修などを通じて、不適切ケアなどの改善や高齢者虐待の未然防止に努め、組織をあげて積極的に取り組んだ。

ハラスメントの防止については、利用者の生活および職員の職場環境が害されることを防止するため、ハラスメントに関する規程および内外部の相談窓口などを利用者や職員に周知を図ることで、一人ひとりの認識を高め、適切な環境を維持できるよう努めた。

(危機管理システムの強化充実)

各種リスクマネジメント対策の強化や事業を継続的に実施するための取り組みを強化することが求められ、久御山町消防署の指導の下、消防総合訓練を実施し、普段からの自衛消防の初期対応の強化や安全な避難誘導訓練や消防機器の点検・設備更新および避難経路の安全確認など、緊急時の対策強化を継続し取り組みを行った。災害などの緊急事態に遭遇した場合に、被害を最小限にとどめて事業継続、早期復旧を行うことができるよう備えることが必要であり、災害時のBCP（事業継続計画）策定後の訓練を机上で実施した。今後、実地訓練など繰り返し実施することで、BCPの見直しを図っていく。

感染症対策では、コロナウイルスが「5類感染症」となったが、重症化リスクの高い利用者が多いため、感染拡大防止対策を大きく緩和できる状況になく、引き続き、体調管理・手指の衛生・マスクの着用・換気など基本的な感染症発生防止対策を講じた。法人全事業（入所系：特養・短期入所・ケアハウスと在宅系：通所介護・訪問介護・居宅介護支援）における年間感染者状況は、新型コロナウイルス：38名（利用者25名のうち入所系1名、職員13名のうち入所系3名）、インフルエンザウイルス：8名（利用者5名のうち入所系4名、職員3名は全員入所系）であった。現在、命を守る取り組みを最優先しながら、感染対策に配慮した施設内での面会や外出機会を確保するなど利用者のQOL向上への取り組みを再開している。

（事業経営の安定化、ガバナンスの確立）

経営面では、各事業において年度当初から目標稼働率には及ばない状況が続いた。特別養護老人ホームにおける入院者数増加や長期化及び一時期に集中的な退所者発生後の新規入所者受入までの手続きが長期となり、空床期間の短縮が図れなかった。併設のショートステイを含めた稼働率についても、目標に達しておらず課題は残っている。デイサービスセンターにおいては、利用者の利用目的や時間などを選択できる体制を確保し、利用者数が増加していたため、定員30名を35名に変更したことで、安定した利用者数の確保に繋がった。又、電気代や物価の高騰など、あらゆる分野において経費の削減を徹底し、収益増に向けた取り組みの強化・継続が必須である。

事業運営の適正化を図るため、各事業において法令遵守の状況を定期的に確認し、介護報酬請求の誤りや加算算定などの不適合事項の有無を確認するなど行った。又、各事業の運営方針を職員一人ひとりが理解し、事業計画の取組状況を半期ごとに評価・見える化を図ることで、職員全体で共有しながら業務を遂行することができた。

（地域貢献事業の展開）

定例の久御山南病院との「合同秋まつり」を開催することができ、地域住民参加のマルシェや各種団体による認知症啓発活動、地域とのつながり再構築など、多方面において活動することができた。今後も個人や関係機関との連携・協働を進めることで、地域住民との交流を深め、地域とともに暮らすという意識を高め、社会福祉事業だけではなく、制度外のニーズにも対応することなども期待されていることを再認識し、さらに取り組みを進めていきたい。

今後も、社会福祉法人の責務としての「地域における公益的な取組」を進め、地域に信頼される施設づくりを目指すことが重要である。

1 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

定員60名

利用者一人ひとりに寄り添った介護の充実を図ることに重点を置き、利用者個々のニーズに対応したサービス提供に取り組んだ。その人らしく生きるということを大切に毎月のリーダー会議やフロア会議の中で業務の見直しや改善に努めた。又、看取り介護においては、「積極的な看取り介護への取組」という共通認識のもと、実践の振り返りや対応力の向上など看取り介護の充実に努めた。

職員の資質向上については、各委員会（事故防止、感染症対策、身体拘束廃止、虐待防止、サービス向上、褥瘡予防対策）の主催や法人研修企画委員会による苑内研修を定期的に行い、職員の自

己研鑽への意識や資質向上に繋げることができた。今後も継続し、個々のサービス内容の見直しを進め、よりよいサービスの提供を行う。介護職員の業務負担軽減など離職防止への取り組みは継続中である。

（１）利用状況

施設の利用状況は、表１のとおりである。令和６年度の年間延べ利用者数は、２０，２１４名（前年比－１４３名）。外泊算定者を合わせた１日平均で５５．２名（同－０．２名）、ベッド稼働率は、９２．０％（同－０．３％）。平均要介護度は、３．９であった（同－０．１）。

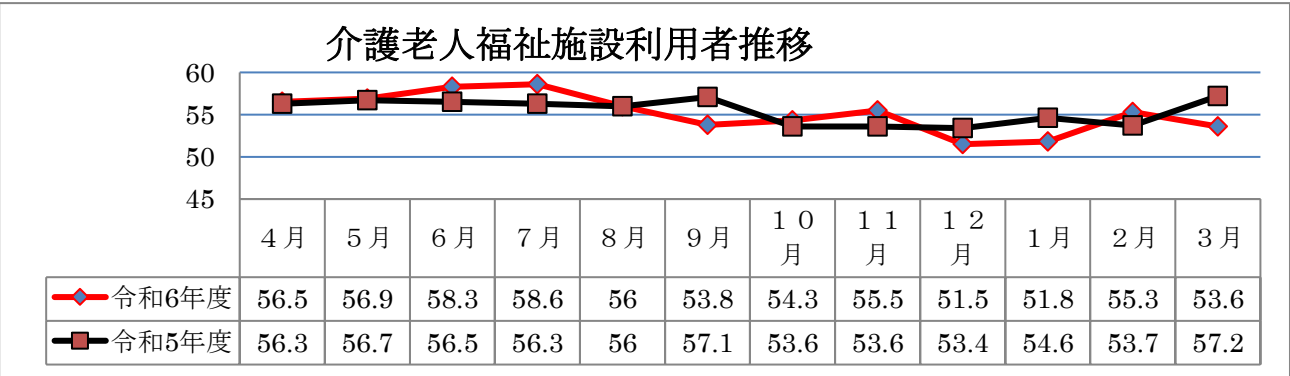
入退所状況については、４月から１０月にかけてスムーズな入所の受け入れができたが、１２月以降に８名の退所者があり、新たに８名入所されているが、空床期間が長期化してしまい、スムーズな受け入れ調整ができなかった。

入院日数については、年間で８７２日（前年比－１４８日）と昨年度と比べ減少している。入院者が減ったこと、又、入院者においては、治療経過や入院期間予測など医療機関との連携をこまめに行い、長期化する場合は、再入所を含めた退所手続きの説明を行い、新規入所につなげたことが入院日数減少となっている。令和７年度も引き続き、日常の健康管理や入退院時の医療との連携、誤嚥性肺炎のリスクを軽減し、入院日数の減少を図り、稼働率向上に繋げていきたい。

表１ 介護老人福祉施設の利用状況

特養		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和6年度	延利用者数	1695	1765	1750	1818	1736	1614	1682	1666	1598	1607	1549	1661	20,141
	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	1日平均(名)	56.5	56.9	58.3	58.6	56.0	53.8	54.3	55.5	51.5	51.8	55.3	53.6	55.2
	入院日数	35	51	35	21	90	77	72	70	136	139	60	86	872
	稼働率%	94.2%	94.9%	97.2%	97.7%	93.3%	89.7%	90.4%	92.6%	85.9%	86.4%	92.2%	89.3%	92%
前年度1日平均(名)		56.3	56.7	56.5	56.3	56	57.1	53.6	53.6	53.4	54.6	53.7	57.2	55.4
入所者数		2	2	2	2	1	2	3	2	1	2	3	2	24
退所者数		2	1	2	1	3	4	1	3	1	2	2	3	25

図１ 介護老人福祉施設の利用者数の推移



（２）利用者の生活の状況

令和６年度の事業計画の重点項目「一人ひとりに寄り添った介護の充実を図る」に基づき、個別ケアの充実に取り組んだ。担当者会議などで、より良い生活を送るために何が必要で何を優先すべきかということに重点を置いて、個別処遇計画の見直しを行った。

施設内の生活では、感染拡大防止に努めながら、近隣への散策など外出行事や夏祭り（８月）やクリスマス会（１２月）の開催など季節を感じていただける行事が実施できた。また、面会についても、感染症対策に配慮し、面会条件の緩和を進めながら実施することができた。利用者も非常に喜んでいた。

表２ 年間行事

４月	外出（近隣散策）
５月	外出（近隣散策）
６月	外出（近隣散策、買い物）、メイクセラピー、おやつ作り、淀花火大会鑑賞
７月	おやつ作り
８月	夏祭り
９月	敬老祝賀式、おやつ作り
１０月	ハロウィンパーティー、外出（近隣散策）
１１月	仮装運動会、おやつ作り、買い物イベント
１２月	クリスマス会
１月	書初め、おやつ作り
２月	節分お楽しみ会
３月	おやつ作り

表３ 利用者の状況（Ｒ７．３．３１現在）

平均年齢		要介護度状況			
男	87.2歳	要介護１	0	要介護４	22
女	89.4歳	要介護２	3	要介護５	15
	89.0歳	要介護３	17	平均	3.9

（３）健康管理について

定期的な健康管理として、毎年４月に一般健康診断を実施。何か異常があれば追加検査を行い、嘱託医より家族に結果の説明や今後の治療方針を相談・決定するなどを繰り返し行った。

NST会議（栄養サポートチーム会議）を継続し、特養利用者全員の既往歴に基づいた追跡検査などを行い、健康管理を行うことで再発予防などに取り組んだ。

入院者数について、延べ17名、実人数17名であった。(入院病名として骨折・酸素濃度低下、肺炎など)年間月平均1.4名入院しているが、12月と1月は、延べ100名を超えており稼働率に影響している。退所者については、25名(入院中死亡者10名、施設内看取り対象者8名、長期間入院加療対象者3名、体調急変3名、その他1名)であった。

感染症対策としては、地域での感染症情報の収集、施設内の状況把握、感染症の知識を職員で共有するなど、感染症対策委員会を中心に行ってきた。今後も継続的な対策会議の開催ならびに協力医療機関など関係機関との連携を密に図り、感染症予防の徹底に努めていきたい。

看取り介護について、毎月の看取り介護委員会の開催、指針の見直し点検や職員にむけての研修(苑外・苑内)を行った。令和6年度は、8名の看取り介護を行ったが、令和7年度もさらなる体制の構築に取り組んでいきたい。

(4) 栄養管理について

食事の提供では、給与栄養目標量と実績(カッコ内)は、熱量1,467kcal/日(1,494kcal/日)たんぱく質57.5g/日(56.0g/日)であった。利用者個々の身体状況、嗜好に配慮した食事提供ができた。また、嚥下・咀嚼機能の変化、疾病状況の変化に添い、迅速に対応できるよう給食委託業者と調整を行った。

厨房内の衛生管理については、委託業者内研修や情報提供などで、感染予防に努め対応できた。これからも衛生面や環境整備に取り組み、感染予防に努めていきたい。

栄養ケアマネジメントでは、個々の栄養管理について、多職種で構成される担当者会議において連携を深め、食種の経緯・体重変化・血液データ・栄養状態のレベル、栄養ケアの経過記録などを基に今後の改善目標を設定し、一人ひとりの状況変化に対し、健康維持・疾病予防・栄養改善のための具体的な提供方法を検討し実施した。又、摂食・嚥下障害対象者には、多職種による協働で口から食べる支援を、経口維持計画を立て実施することで、さらに栄養管理を強化していくことができた。

表4 <お誕生日食・行事食> 以下、特別献立食を月1～2回提供した。

行事名	実施日	提供内容
4月のお誕生日食	令和6年4月20日	寿司御膳
端午の節句	5月5日	ちらし寿司御膳（穴子・海老ちらし、天ぷら）
5月のお誕生日食	5月17日	松花堂弁当（手毬寿司、天ぷら、鯖の有馬焼）
6月のお誕生日食	6月19日	洋食ランチ（煮込みハンバーグ、サーモンナッペ風）
七夕	7月7日	七夕そうめん
7月のお誕生日食（土用の丑）	7月24日	うな井御膳
8月のお誕生日食	8月21日	松花堂弁当（ちりめん山椒、天ぷら、マンゴー）
9月のお誕生日食（敬老の日）	9月18日	お祝い膳（赤飯、天ぷら、鯛の塩焼き）
10月のお誕生日食	10月22日	ちらし寿司御膳（鮭・いくらちらし、松茸清汁）
11月のお誕生日食	11月16日	寿司御膳
12月のお誕生日食（X'mas）	12月24日	X'masランチ（ミートローフ、ローストビーフサラダ、エビフライ）
元旦	令和7年1月1日	お節料理
1月のお誕生日食	1月24日	海鮮丼
節分	2月3日	巻き寿司
2月のお誕生日食	2月20日	松花堂弁当（蟹ご飯、刺身、天ぷら）
桃の節句	3月3日	ちらし寿司御膳（鮭・海老ちらし、炊き合わせ）
3月のお誕生日食	3月21日	春のお寿司御膳（お花見稲荷等）

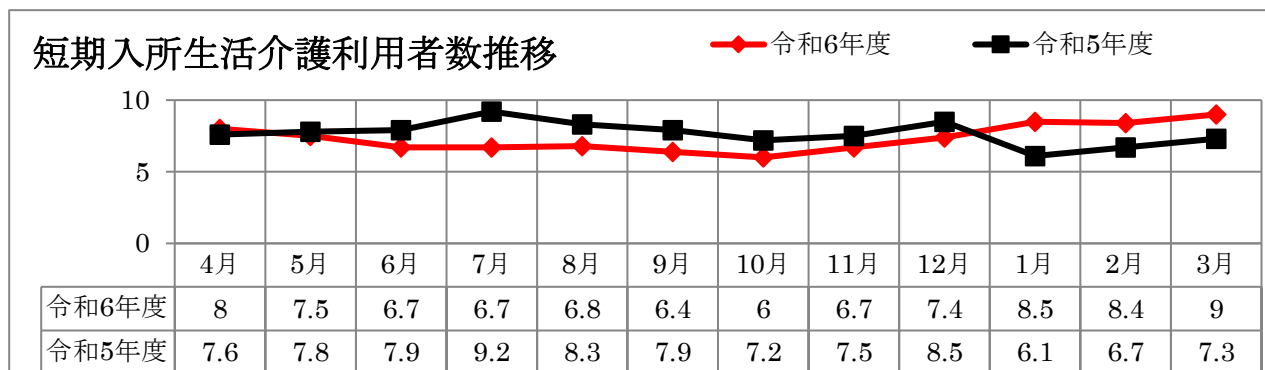
2 ショートステイ（短期入所生活介護、介護予防短期入所生活介護） 定員10名

利用者数は、表4のとおりである。年間のベッド稼働率は、73.0%（前年比－4.9%）延べ利用者数は2,682名（同－121名）であった。稼働率については、6月～11月において、定期利用者の特養施設入所や長期入院されたことが、前年比較マイナスの大きな要因となっている。しかし、12月以降は、緊急ショートステイの受け入れから定期利用や稼働率の向上につなげることができた。今後もケアマネジャーを中心に、近隣市町村の居宅介護支援事業所および医療機関などへの利用者獲得の働きかけを続けながら、利用者数増加に繋げていきたい。

表5 短期入所生活介護利用者の状況

ショート		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和6年度	利用者数実績	241	232	200	209	212	192	187	200	230	265	236	278	2,682
	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
	1日平均(名)	8.0	7.5	6.7	6.7	6.8	6.4	6.0	6.7	7.4	8.5	8.4	9.0	7.3
	稼働率%	80%	75%	67%	67%	68%	64%	60%	67%	74%	85%	84%	90%	73%
前年度1日平均(名)		7.6	7.8	7.9	9.2	8.3	7.9	7.2	7.5	8.5	6.1	6.9	7.3	7.7

図2 短期入所生活介護利用者数の推移



3 デイサービスセンター（通所介護、第1号通所型サービス） 定員30名 8月以降定員35名

（1）利用状況

年間延べ利用者数8,210名（前年比+1,468名）、1日当たりの平均利用者数は、26.7名（同+4.7名）であった。このうち、短時間（4時間未満）利用者は、年間530名（同一219名）で総利用者数の6.5%であった。また、通所型サービスの利用者は、年間1,480名（同+561名）で総利用者数の18.0%であった。

表6 通所介護事業所の利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和6年度	4～8時間	603	642	627	627	621	655	716	674	642	605	588	680	7680名
	4時間未満	48	54	49	49	49	44	51	44	45	37	27	33	530名
	延利用者数	651	696	676	676	670	699	767	718	687	642	615	713	8210名
	稼働日数	26	27	25	27	27	25	27	26	24	24	24	26	308日
	1日平均	25.0	25.8	27.0	25.0	24.8	28.0	28.4	27.6	28.6	26.8	25.6	27.4	26.7名
	稼働率(%)	83.5%	85.9%	90.1%	83.5%	70.9%	79.9%	81.2%	78.9%	81.8%	76.4%	73.2%	78.4%	80.3%
令和5年度 1日平均		19.1	19.6	21.0	21.6	21.2	21.8	22.8	22.4	23.6	22.7	23.3	25.2	22.0名

図3 通所介護利用者の推移

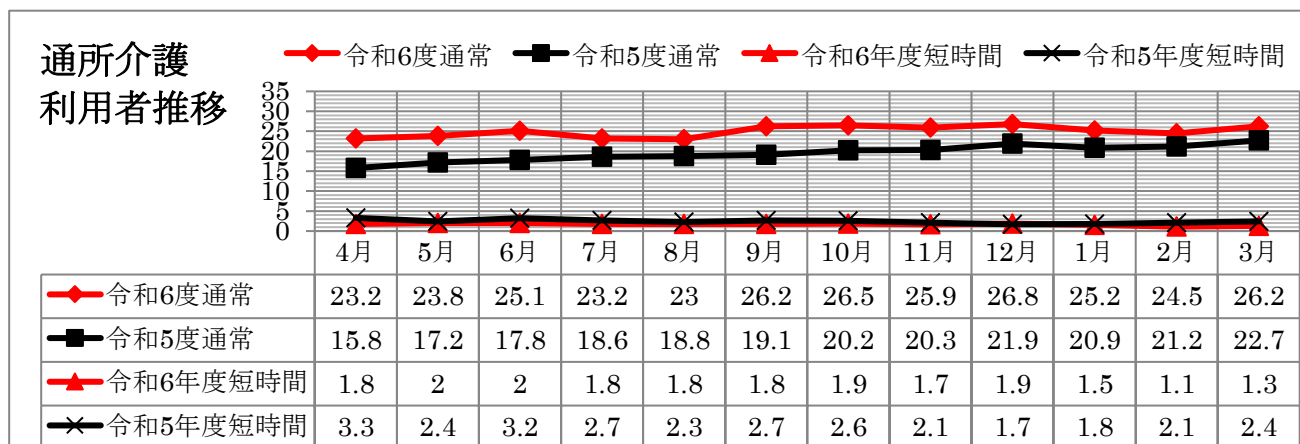


表7 利用者の状況（介護度）

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	介護度 平均
男性	0名	1名	2名	5名	9名	8名	1名	0名	1.8
女性	2名	2名	5名	15名	12名	12名	6名	1名	1.9
計	2名	3名	7名	20名	21名	20名	7名	1名	1.9

表8 年間行事

4月	おやつ作り:おはぎ
5月	イオン買物
6月	おやつ作り:桜餅、さつま芋苗植え
7月	イオン買物
8月	夏祭り
9月	おやつ作り:抹茶白玉あんみつ
10月	イオン買物
11月	紅葉見学、さつま芋収穫
12月	クリスマス会
1月	新年会、おやつ作り:五平餅
2月	おやつ作り:おはぎ
3月	外出行事:桜見、御牧小学校交流会

(2) 重点項目

1) 稼働率の向上及び増収について

居宅介護支援事業所への定期的な訪問や提供サービスの案内、又、新規利用者の紹介から受け入れまでのスムーズな対応が稼働率の増加につながった。

2) 利用者、家族の立場に立ったケアの提供について

1 時間毎のサービス提供時間の選択など利用者、家族のニーズに添ったサービス提供ができた。又、感染対策の徹底に努めながら、外出行事の実施など利用者の満足度を高める取り組みができた。

3) 機能訓練の充実について

在宅での状態を確認しながら、協力医療機関の理学療法士との協議の中で、訓練内容の検討や実施状況など評価を行うことができた。又、運動機器の積極的な導入・活用など訓練メニューの充実を図ることができた。

4) 地域とのつながりについて

行政や地域住民と協力し、野菜の苗植えや収穫、又、久御山コミュニティ祭りや認知症啓発活動の企画・運営への参加など交流の場を持つことができた。

5) 安心、安全なサービス提供について

毎月の事故防止対策委員会や身体拘束廃止委員会において、ヒヤリハット事例などの検証を行うことができた。

6) 職員の育成について

定例会議や各種委員会（事故防止、サービス向上、感染症対策、虐待防止、身体拘束廃止）の中で、研修や勉強会を実施し、職員の資質やサービス向上の取り組みを行うことができた。

7) 共生型サービスの導入について

導入するには至っていないが、町社協主催の障がい福祉理解促進研修への参加など行政や町内障がい支援事業所及び相談支援員などと連携を図ることができた。今後も共生型サービス導入に向けた取り組みを推進します。

4 ケアハウス

定員 15 名

令和 6 年度は、引き続き、感染症防止対策に配慮は必要であったが、新型コロナウイルス感染症の発症もなく、日常を取り戻しつつあり、外出や家族との交流機会などが増加し、生活の活性化に繋がった。介護保険要介護度区分においては、全入居者が要支援・要介護認定（平均要介護度：1.8）を受けている。介護保険外を含めた各種サービスとの連携を深めながら、可能な限り自立した生活が送れるサポート体制の充実が、今後も一層必要である。

（１）入退居者の状況

令和６年度は、４名の退居があったが、２名室にご夫婦での入居があり５名入居し、定員の１５名となった。平均年齢は、８３．３歳（男性：７９．６歳、女性：８７．０歳）であり、前年度に比べ３．８歳であるが、日常生活における見守りや介護の必要性は高まっており、重度化が進んでいる。その為、多様なニーズに対応できるようケアマネジャーや関係機関と連携を図り、必要な介護予防サービスなどの早期介入により、自立した生活が送れた。

表９ 入退居者の状況

入退居者数	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
R６年度入居	０	０	０	０	２	０	１	０	０	０	０	２
R５年度入居	１	０	０	０	０	０	０	０	０	０	０	０
R６年度退居	０	０	０	１	０	１	０	０	０	１	１	０
R５年度退居	０	０	０	０	０	０	０	０	０	０	０	０

表１０ 要介護度区分および介護保険サービス利用状況

要介護度区分		
	R５	R６
自立	０	０
要支援１	０	１
要支援２	０	１
要介護１	４	６
要介護２	８	４
要介護３	２	３
平均要介護度	１.９	１.８

サービス利用実数		
サービス内容	R５	R６
訪問介護	７	１１
訪問看護	２	２
通所介護	３	７
福祉用具貸与	１３	１２
訪問リハビリ	２	１
居宅療養管理指導	１	１
小規模多機能施設	７	３
在籍者数	１４	１５

（２）健康管理について

年１回の特定健診を受診し結果を主治医へ報告した。インフルエンザやコロナウイルスの予防接種を行い、感染症防止のため手洗いの励行や消毒ならびに換気に努めた。又、食事摂取量の変化は、健康のバロメーターと考え、極端に摂取量が少ない日が継続していないか観察を行い、変化のあった場合は病院やケアマネジャーに情報提供するなど、異常の早期発見や対応に繋がった。

（３）行事について

お花見や久御山コミュニティー祭りなどの行事、又、家族との外泊・外出の機会は増加し、地域や家族との交流の機会が確保できた。屋内で行う行事では、ボランティアグループによる活動やクラブ活動に繋がる取り組みが計画とおり実施できなかったが、作品作りやカラオケなどレクリエー

ションの充実は図れた。又、入居者が生きがいを持ち、楽しく日常生活を過ごしていただけるように、町内和菓子店や移動スーパーの定期訪問など、定期的な買い物ができる環境を継続することができた。

表 1 1 年間行事一覧表 ※毎週水曜日 移動スーパー（とくし丸）訪問販売

月	内 容	月	内 容
4月	和菓子訪問販売・桜お花見	10月	和菓子訪問販売
5月	和菓子訪問販売・懇談会	11月	和菓子訪問販売・秋祭り・懇談会
6月	和菓子訪問販売	12月	和菓子訪問販売・クリスマス会
7月	和菓子訪問販売・懇談会・法人全体水害避難訓練	1月	和菓子訪問販売・懇談会
8月	和菓子訪問販売	2月	和菓子訪問販売
9月	和菓子訪問販売・懇談会	3月	和菓子訪問販売・懇談会・ケアハウス単独避難訓練

5 ヘルパーステーション（訪問介護、訪問型サービス）

（1）利用状況

令和6年度の新規利用者については、月平均3.5名程であり、一定数の新規利用者は獲得できた。利用終了者数については、年間で38名（前年比＋5名）であったが、医療機関への入院・施設入所・逝去者だけではなく、自立支援につながり、利用が終了となることも多くあった。訪問介護員の退職や体調不良などが重なり、担当できる訪問介護員の調整ができずに受け入れを断らざるを得ない状況はみられたが、前年度に比べ、その機会は少なかったこともあり、訪問回数の増加（同＋387回）に繋がっている。

表 1 2 ヘルパー派遣利用者数

（単位：名）

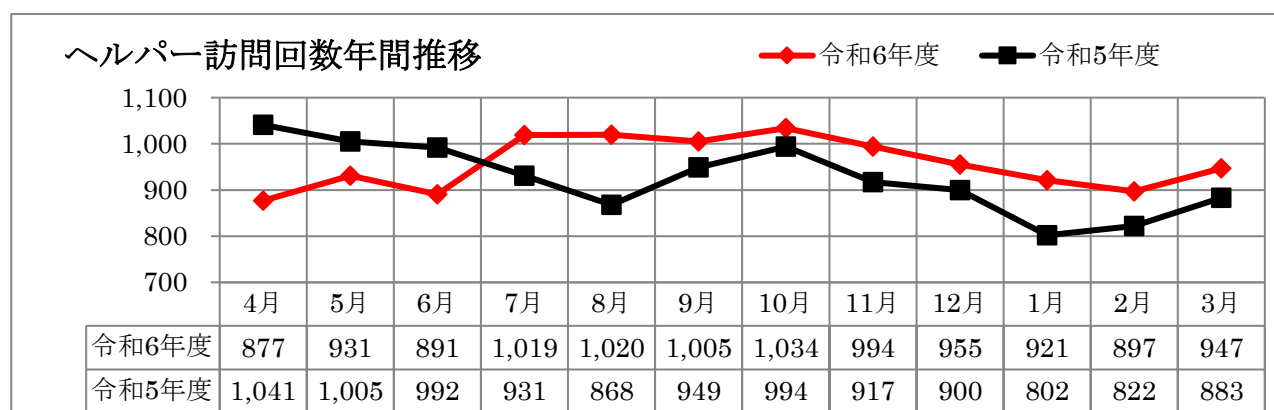
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数(介護)	74	73	76	74	76	77	71	68	73	67	62	70	861
利用者数(予防)	23	29	25	27	31	25	27	27	29	24	24	25	316
合 計	97	102	101	101	107	102	98	95	102	91	86	95	1,177

表 1 3 ヘルパー訪問回数と前年度比較

(単位：回)

訪問回数	内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	身体介護	392	419	419	487	463	474	478	434	406	388	363	376	5,099
	身体生活	119	127	117	122	127	127	130	126	127	133	133	161	1,549
	生活援助	366	385	355	410	430	404	426	434	422	400	401	410	4,843
令和6年度		877	931	891	1,019	1,020	1,005	1,034	994	955	921	897	947	11,491
令和5年度		1,041	1,005	992	931	868	949	994	917	900	802	822	883	11,104
増 減		-164	-74	-101	88	152	56	40	77	55	119	75	64	387

図 4 ヘルパー累計訪問回数



(2) 重点項目

個別サービスの向上については、看取り介護対象者の訪問や喀たんの吸引が必要な方への支援などもあり、他事業所との情報提供をこまめに行い共有することで、サービス向上につながった。

職員体制の充実については、訪問介護員の相談に応じ、働きやすい職場作りに努め、離職防止に向けて取り組むことができた。訪問介護員の高齢化や体調不良、所得制限、訪問移動時の事故により訪問介護員の稼働時間が減少したため、サービス提供責任者による代替訪問回数の増加や長時間の通院介助対応が求められるケースも多くあり、訪問介護員の確保は引き続き急務である。

訪問介護員の研修については、夕方時間帯の集合型で実施したが、参加できない訪問介護員も数名おり、2部制にするなど全員が参加できるよう今後の課題として取り組んでいく必要がある。今後もサービスの質の向上のため、内部研修だけでなく、外部講師による研修の依頼も積極的に行い、全体のスキルアップを図っていく。

表 1 4 研修内容

日 時		事業所内研修	外部研修
4月	随時	認知症について	
5月	随時	緊急時対応について	
6月	随時	食中毒について	
7月	随時	脱水・熱中症について	
8月	随時	資料配布	
9月	随時	接遇について	
10月	随時	法令順守について	
11月	随時	感染症について	
12月	随時	資料配布	
1月	随時	意見交換会	
2月	随時	BCPについて	ホームヘルパー事業所のBCP再点検
3月	随時	ヒヤリハットまとめ	

6 居宅介護支援事業所

(1) 利用状況

給付管理件数は、月平均 1 7 0 件（前年度比＋ 3 件）、給付管理票提出総件数は、2 0 4 0 件（前年度比＋ 3 2 件）と増加した。8 月に常勤換算数－ 1 名となったこともあり、8 月以降の目標件数を月 1 7 8 件としていたが、年間目標件数を達成できなかった。

予防給付件数については、月平均 3 3 件（同＋ 3 件）と微増ではあるが増加した。

表 15 <ケアプラン作成実績>

(単位: 件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度	174	182	181	165	163	171	164	169	172	164	163	172	2,040
令和5年度	148	160	160	172	168	166	174	170	170	173	168	179	2,008

<要介護度別ケアプラン作成実績>

(単位: 件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	令和6年度	45	42	57	43	41	53	45	45	45	44	44	47	551
	令和5年度	42	44	41	37	37	36	36	33	39	39	38	44	466
要介護2	令和6年度	51	54	74	49	46	52	47	46	43	42	39	42	585
	令和5年度	39	46	46	54	54	57	58	53	52	52	56	61	628
要介護3	令和6年度	29	27	32	27	26	34	26	31	33	32	32	34	363
	令和5年度	18	18	23	22	20	23	30	35	29	29	25	26	298
要介護4	令和6年度	10	9	15	8	7	8	6	8	8	8	11	14	112
	令和5年度	16	15	13	16	14	11	13	11	14	14	11	10	158
要介護5	令和6年度	5	6	9	6	6	6	7	7	7	7	7	7	80
	令和5年度	7	6	7	6	8	7	5	6	5	5	4	4	70
居宅介護支援介護 給付費別(年間総数)		令和6年度	介護度 1～2				1,136		介護度 3～5		555		合計	1,691
		令和5年度	介護度 1～2				1,094		介護度 3～5		526		合計	1,620

図5 ケアプラン作成実績

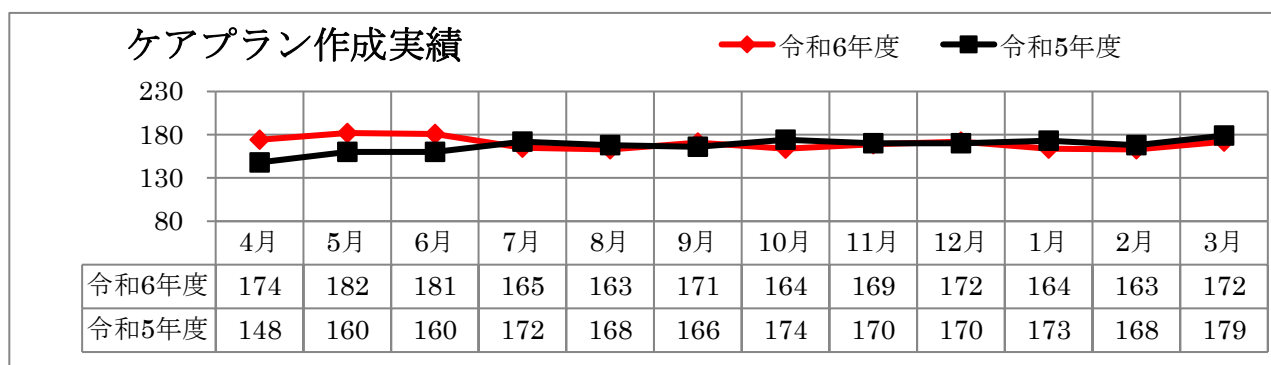
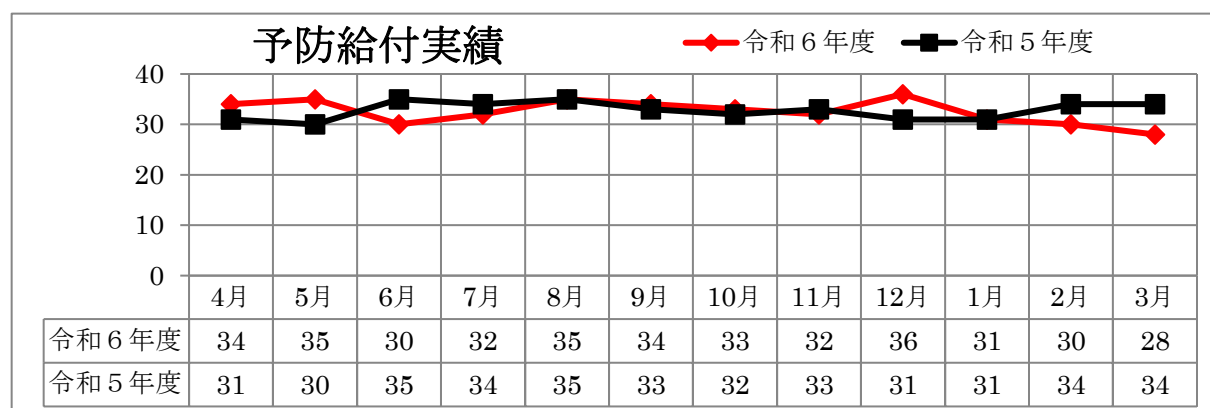


表16 予防給付(委託)実績

(単位:件)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援	令和6年度	34	35	35	32	35	34	33	32	36	31	30	28	395
	令和5年度	31	30	30	34	35	33	32	33	31	31	34	34	388

図6 予防給付実績



(2) 重点項目

新規利用者の獲得においては、地域包括支援センターや他事業所からの担当者変更による移行などの他、直接来所での相談も多くあり、事業所内での連携・協力を深め、積極的に相談受付を行い、受け入れることができた。新規依頼件数は、月平均5.6件獲得できた。

介護支援業務については、事業所内の定例会議を通し、こまめに事例の振り返りや確認を行うことで、利用者の情報や支援内容を共有し、事業所全体で支援を行う体制を充実させることができた。又、特定事業所加算算定事業所として、法定研修だけでなく外部の各種研修にも積極的に参加し、スキルアップに努めた。さらに、新しい居宅介護支援事業所やサービス提供事業所、

在宅医と関わる機会が増えたこともあり、これまでにない幅広い連携を行うことができた。

業務体制としては、ご利用者の入院時に、事業所内スタッフ間での協力、連携により早期の情報提供を行うことができ、加算算定につなげることができた。今後も質の高いケアマネジメントが実践できるように事業所内外の連携強化や、研修や事例検討などの充実を図っていきたい。

7 研修一覧

表 1 7 施設外研修一覧

実施主体	研修名
京都府	介護サービス事業者等集団指導、認知症介護基礎研修、認知症介護実践者等養成研修、認知症介護実践リーダー研修、民間社会福祉施設長研修会、京都府認定調査員初任者研修、地域共生社会実現サポート事業研修会、看取りサポートの人材養成研修、防災士養成研修、福祉サービス苦情解決事業相談研修会
京都府山城北保健所	高齢者等入所施設における感染症予防研修会、地域高齢者等栄養管理支援のための連携推進研修会
京都府・京都労働局・職業安定所	企業対象人権啓発推進員研修会
京都府老人福祉施設協議会	総会・施設長研修会、山城北ブロック施設長会・研修会、看取り介護導入研修、施設看取り専門研修、
京都府社会福祉協議会	社会福祉法人役員・施設長等運営管理職員研修、生産性向上推進セミナー
京都府地域包括ケア推進機構	介護施設における看取りケア研修
京都府公安委員会	安全運転管理者等に対する講習
久御山町	町内介護支援専門員研修、介護現場におけるカスタマーハラスメントを共に学ぶ
久御山町社会福祉協議会	災害ボランティアセンター運用研修会、プライバシー保護等について、障がい者当事者の支援、パワハラ・セクハラ研修～安全・安心に働ける職場環境づくり～
久御山町消防本部	防火管理研修会、普通救命講習、

全国社会福祉法人経営者協議会	定例研修セミナー（前期・後期）、テクノロジー等の活用と社会福祉法人経営
全国社会福祉法人経営青年会	組織・人材マネジメント委員会セミナー
京都府介護支援専門員会	介護支援専門員更新研修（課程Ⅰ・課程Ⅱ）、主任介護支援専門員研修、主任介護支援専門員更新研修
京都府ホームヘルパー連絡協議会	能登半島地震から考えるホームヘルパー事業所の BCP 再点検
（一財）京都府民間社会福祉施設職員共済会	共済会・基金事務説明会
近畿社会福祉法人経営者協議会	近畿ブロックセミナー京都大会
（株）エクサホームケア	生産性向上につながる A I の活用（デイサービス）
一般社団法人全国個室ユニット型施設推進協議会	安全対策体制加算対応研修会、ADL 維持等加算対応バーサルインデックス研修会
一般社団法人福祉経営研究機構	社会福祉法人の経営力強化
久御山南病院グループ研修会	24 年診療報酬・介護報酬改定動向、医療と介護の連携強化、介護情報基盤、医療 DX とマイナ保険証推進策について、法令遵守研修会、摂食機能療法、ケアマネジメントに係る諸課題に関する検討会中間整理

表 18 施設内全体研修一覧

実施日	内 容	講 師など	参加者数
5月20日	技能実習生を迎え（みんなで交流会）	楽生苑職員日本語講師	33 名
6月17日	環境問題について	特養看護師	30 名
7月22日	ノロウイルス（嘔吐物処理）について	特養感染症対策委員会	28 名
8月19日	ライフプランニング	ソニー生命保険株式会社 石田 研摩氏 田中 拓心氏	30 名
9月30日	栄養管理と排せつケアについて	ネフレ日本株式会社 濱田 幹太氏	26 名
10月21日	身体拘束基礎研修	特養身体拘束廃止委員会	25 名
1月20日	感染対応と身体拘束・虐待について	特養感染症対策委員会 身体拘束廃止委員会	20 名
2月17日	血管年齢測定・骨ウエーブ測定・立ち上がりテスト測定	明治安田生命保険相互会社 野村 彩音氏 川上 真由氏	26 名
その他	学研ナーシングサポート、介護サポートの E ラーニング形式	学研ナーシングサポート、介護サポート	全職員

8 危機管理

【事故及び苦情の状況】

事故の未然防止対策として、事故防止対策委員会（各部署：毎月、法人全体：2か月に1回）、や臨時の事故防止対策委員会の中で、発生状況やリスク回避の対策共有などを行った。分類基準別では、中等度の割合が大きく全体の54.5%（12件／22件）を占めている。主な内容は、転倒・転落後の医療機関受診（骨折等外傷なし）によるものである。重度の内容については、転倒による骨折（1件）、外傷縫合（2件）、脳震盪により医療機関入院（1件）である。ヒヤリハット事例の件数は、昨年度と比べ減っている。職員の意識によって「気づき」の件数に大きく影響することや見守り体制が不十分になることで、事故の発見が遅れることがあったため、今後も見守り機器の導入など体制の充実を図り、取り組みの強化を図っていく。

要望及び苦情については、21件（前年度比＋12件）であった。件数は増加している。要望および苦情については、貴重な意見であるという認識のもと、各事業で再発防止策を検討し、法人全体で共有を図り、再発防止に努めた。事故や要望及び苦情の発生状況については、下表のとおりである。

表19 事故の状況

単位：件

事業所	年度	致命的	重度	中等度	軽度	合計	ヒヤリハット
特 養	R6年度	0	2	7	6	15	480
	R5年度	0	6	4	11	21	580
短期入所	R6年度	0	1	2	0	3	77
	R5年度	0	0	1	2	3	48
ケアハウス	R6年度	0	0	0	0	0	0
	R5年度	0	0	0	0	0	0
通所介護	R6年度	0	1	2	0	3	74
	R5年度	0	0	0	1	1	41
訪問介護	R6年度	0	0	0	0	0	0
	R5年度	0	0	0	0	0	0
居宅介護支援	R6年度	0	0	1	0	1	0
	R5年度	0	0	0	0	0	0
合 計	R6年度	0	4	12	6	22	631
	R5年度	0	6	5	14	25	669

（参考）分類基準（利用者への影響レベル）

軽 度：事故により利用者に変化が生じ、一時的な観察が必要となった場合

中等度：事故のため、一時的な医療的対応（治療）が必要となった場合

重 度：事故のため、継続的な医療的対応（治療）が必要となった場合

致命的：事故が生命を脅かすことに繋がった場合（繋がると予測できる場合）

表 2 0 要望及び苦情の状況

単位 (件)

事業所	ケアの内容に関すること	個人の嗜好・選択に関すること	利用料に関すること	接遇に関すること	その他
法人	0	0	0	0	4
特養	0	0	0	1	1
短期入所	2	0	0	0	2
ケアハウス	1	0	0	0	1
通所介護	3	0	0	1	0
訪問介護	2	0	0	0	0
居宅介護支援	1	0	0	1	1

【防災対策】

防災対策については、消防総合避難訓練を10月と1月に実施した。また、8月に水害を想定した訓練も実施した。避難訓練の内容は、下表のとおりである。

表 2 1 施設内での災害避難訓練の実施状況

実施日	内 容	実施事業所	立会い及び指導
8月14日	消防災害避難訓練（日中想定）	ケアハウス単独	担当職員
8月15日	水害想定避難訓練	特養、デイサービス	久御山町
10月24日	消防災害避難訓練（夜間想定）	特養、ケアハウス	久御山町消防本部
1月24日	消防災害避難訓練（夜間想定）	特養、ケアハウス	久御山町消防本部

【職員の健康管理】

定期健康診断（9月）、腰痛検診（9月～10月、2月～3月）、夜間従事者健康診断（2月）、採用時健康診断（随時）を実施。メンタルヘルスについて

は、毎月の安全衛生委員会や産業医のミニ講座などで相談窓口の周知を図った。なお、法人職員全体研修内で、血管年齢の測定など健康面に配慮した研修を実施した。又、職員意見箱の設置や定期職員面談を年1回実施し、働きやすい職場づくりや働き方改革の推進に取り組み、有給休暇消化率を定期的に確認するなど適正な労務管理に努めた。